

## 2020 ファルコンシネマ 上映作品

9月12日(土) 午前10時～



「あすなる物語」 モノクロ／108分

原作は、井上靖。少年期から青年期を通して、様々な人々（女性）との邂逅と主人公の成長を描いた反自伝小説。

映画では、小説前半(主人公が13、16、19歳)の3つのエピソードをそれぞれ3人の女性を中心にまとめたもので、ストーリーの核となる3人を、岡田茉莉子、根岸明美、久我美子が、原作の瑞々しさそのままに演じている。

それぞれの女性像は、情感にあふれ、雪山や海辺の映像美と共に“凛とした美しさ”を訴えかけている。1955年東宝作品。

9月12日(土) 午後1時～



「次郎物語」 カラー／110分

原作は下村湖人の同名長編小説。幼いときに里子を経験した少年の成長を、家族との交流を軸に描く。昭和初期。本田家の次男として誕生した次郎は、母・お民の体調が悪かったため、生後すぐに里子に出されることに。その後、お民の快復と共に家へ連れ戻されるが、乳母のお浜に懐いている次郎はすぐに逃げ帰ってしまうのだった。そんな次郎に、祖母のおことは冷たくあたるが、父・俊亮は他の兄弟と比べることなく優しく接する……。1987年、制作・キネマ東京ほか。出演は加藤剛、高橋恵子、井川比佐志ほか。

9月13日(日) 午前10時～



「風の又三郎 ガラスのマント」 カラー 107分

村の分教場に転校してきた風の又三郎と子供達との交流を描く。原作は宮澤賢治原作の童話『風の又三郎』。この作品では、原作にはない「かりん」という少女が登場する。母と二人暮らしの少女、かりんの前に現れた高田三郎は、二百十日の風に転校してきたために「風の又三郎」と呼ばれる。彼が来てからは不思議なことの連続だった。東北地方の豊かな自然を背景に、カメラの大胆な動きは、観客を一気にファンタジーの世界に引き込む。1989年、制作・日本ヘラルドほか。出演は早勢美里、小林悠、草刈正雄、檀ふみほか。

9月13日(日) 午後1時～



「少年時代」 カラー 117分

漫画家・藤子不二雄<sup>Ⓐ</sup>の戦中体験を映画化した作品。学童疎開の体験を綴った、柏原兵三による自伝的小説「長い道」から着想を得ている。井上陽水による同名の主題歌もヒットした。

東京から富山に疎開してきた小学5年生の進二と、地元のガキ大将・武との触れあいを基軸として、終戦の夏に至る1年間の少年たちの心の成長の様子を、四季の美しい映像を背景に描き出している。日本アカデミー賞最優秀作品賞など受賞多数。1990年「少年時代」制作委員会。出演は岩下志麻、細川俊之、藤田哲也、堀岡裕二ほか。